30T-am12

禁煙とその指導　―喫煙の現状と方針について―

○定本　清美[1], 高橋　瑞穂[1], 武藤　里志[1], 柳川　忠二[1]（[1]東邦大薬）

【目的】世界中で喫煙対策が重要な課題となっている中で、日本の対策や教育の遅れが指摘されている。医療機関など全面禁煙の施設が増えているが、大学での実態は明らかでない。そこで今回は薬学系大学における喫煙の実態を調査し、今後のあり方について検討する。**【方法】**全国の薬学系大学 63 校に喫煙状況や禁煙対策へ取り組みについての質問調査表を郵送し調査を行った。**【結果】**回答率は95.2%であった。**1.**学内環境について、自動販売機や売店が学内にある割合は全体で 23.3%、設立から 5 年以内の学校においては 5%であり有意差があった。禁煙に関して 9 割以上の大学で何らかの学内基準はあったが、敷地内全面禁煙は 12,4%に留まり、分煙や歩行中禁止など甘い基準が 6 割以上であった。またそれらの基準の遵守率は 66%であった。教員の居室では全て禁煙が 85%で、遵守率は 6 割であった。分煙の場所に関しては仕切りがない喫煙スペースの設置が 68%であり、不完全な分煙が多かった。**2.**禁煙に対する取り組み状況については、学長や学部長の発案 23,5%、時代に沿った感覚で始めた 22,2%、不審火などをきっかけに 13,1%などが上位であった。校内で統一する有効な方法については、学長や学部長のリーダーシップ 16,7%、教員の熱意 11,7%、学生の熱意 10%などが多く学内での基準の伝播と全員の協力なくしては達成できない情況であった。**【考察】**薬学系大学の禁煙への取り組みは、小・中・高校や医療機関に比べ施設差があり、また方針も徹底した考え方を取り入れている割合は少なかった。薬剤師が医療人として禁煙指導をする立場に立つためには、大学内での禁煙対策及び教育が必須であると考えられた。